

屋嶋城跡

屋島で最も古い史跡の一つである屋嶋城は、667年に築城された。日本で最も古い正式な歴史書である「日本書紀」（720年）にも記載されているが、1998年になって城の遺構が特定された。

屋嶋城は、唐や朝鮮半島の王国だった新羅が侵攻してきたときに備えて築かれた城の一つである。しかし、想定していた攻撃は来なかった。当時の屋島は四国の本土とは完全に分離していたため、城からは海が一望できた。屋嶋城は、後の時代の一般的な城とは異なり、配置や高さ約6メートルのものを含む石垣は当時の朝鮮半島の城のような素朴な作りになっている。

城門は屋島の南嶺に位置し、高松市に面している。発掘され、復元され、一般に公開されている。門自体は2.5メートルの高さの尾根の上にあるため、梯子を使って入ることになる。また、正門と直角の位置に2つ目の入口があり、「甕城」と呼ばれる攻め手のネックになっている。

城は、その環境を最大限に利用するように設計された。城壁の長さは約7キロにも及ぶが、人工的に作られたものは全体の1割程度と言われている。残りは屋島の自然の尾根や岩を利用しているようで、屋島の現在の遊歩道の中には城壁の上に乗っているものもある。